

学校教育目標 「ともに学び自ら伸びる～自他尊重～」

	評価計画				自己評価				学校関係者評価	改善方法			
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	昨年度	中間値	最終値			達成度	評価	結果と課題の分析
確かな学力・体力の向上	生徒が主体的に学ぶ教育を推進し、自分の考えを表現できる力を育成する。 (主体性と表現力の育成)	【主体性と表現力の育成】 ①学び合いたいと思える発問や提示方法の工夫を行う。 ②表現力の向上を目指した授業づくりを進める。  小中一貫教育による「主体的な学び」の深化	①-ア ディスカッション、教え合い、プレゼンテーション等、協働的に学び合う学習スタイルの実践	「話し合い活動」に進んで参加し、自分の考えを伝えている。と回答する生徒の割合(生徒アンケート)	90%	-	84%	87%	97%	B	○先遣校の実践から学びながら研究を進めることで、生徒が学習の目標に向かって話し合いを進められるようになってきた。自分の考えを伝えるようになってきた。誰と(どのような考えを持つ人)話し合えばいいかを判断し、行動できる生徒が増えた。	・話し合い活動については、教師のタイミングで取り入れるだけでなく、生徒が話し合いたいと思うタイミングで取り入れられるよう、柔軟な授業の枠づくりも進めてほしいと思う。 ・ICTの活用が軌道にのり、個別最適な学びのツールとして定着し始めていることが良いと思う。	○話し合いの必要性を生徒が感じ、自ら学び方を進め、授業スタイルを全教員に浸透させるため、教員間で研修し、共通理解を図る。 ○引き続き、授業等でのICTの活用を進め、生徒の表現力を高めていく。
			①-イ ICTを効果的に活用(教材提示、情報収集、思考を深める、伝え合う場面での積極的活用及び研究の推進)	「授業におけるICTの活用は内容の理解や考えの表現に役に立っている」と回答する生徒の割合(生徒アンケート)	80%	-	98%	97%	121%	A	○生徒が積極的にICT機器を活用し、表現豊かに自分の考えや学びを伝えられるようになっている。 ●調べた上で、「わかった」と勘違いすることのないように、ICTの活用方法に気を付けていく必要がある。	・ICTの活用が軌道にのり、個別最適な学びのツールとして定着し始めていることが良いと思う。	○改善した「四季中授業スタイル」を提案し、全教員が実践していくためのステップを考えていく。
			①-ウ 「本時の目標」と「振り返り」による学びの充実	「四季中授業スタイル(「めあて」と「振り返り」、学習規律の徹底)」を実践している」と回答する教師の割合(教職員アンケート)	90%	95%	91%	100%	111%	A	○研究部を中心に、今年度は何を中心に取り組むか、教職員で共通認識をもって取り組んだ成果が出ている。もう一歩進んだ授業スタイルの目標を設定する段階にあると考えている。	・生徒が落ち着いて授業に集中している姿があった。指導される先生の表情も明るく、良い雰囲気での授業が展開されていた。	○改善した「四季中授業スタイル」を提案し、全教員が実践していくためのステップを考えていく。
			②-ア 教科の特性を生かした表現の場の設定	「自分はクラスの人や友だちの役に立っている」と肯定的評価の生徒の割合(生徒アンケート)	90%	95%	91%	100%	111%	A	○4月に行われた全国学力・学習状況調査(3年生)において、国語、数学ともに県平均・学年平均を上回ることができた。 ●1月実施の実力テストにおいて、通過率が全国平均以上だったのは1学年(1/3教科)、2学年(1/5教科)だった。	・生徒が落ち着いて授業に集中している姿があった。指導される先生の表情も明るく、良い雰囲気での授業が展開されていた。	○改善した「四季中授業スタイル」を提案し、全教員が実践していくためのステップを考えていく。
豊かな心	自他を認め合い、ともに高まる生徒を育成する。 (協働性と自己有用感の育成)	【協働性と自己有用感の育成】 ①自他を認め合い、ともに尊重し合うことのできる生徒を育成する。 ②集団の中での役割を意識させ、自己有用感を高める。 ③ふるさとへの愛着と誇りの心を育む。  小中一貫教育による協働性と自己有用感の醸成	①-ア 学校生活すべてを自分たちで動かす意識の育成(委員会活動、縦割り掃除等)	「友達や先輩後輩と協力するのは楽しい」と回答する生徒の割合(生徒アンケート)	90%	91%	84%	85%	94%	B	○生徒会活動において3年生がより良い四季中を目指して取り組んできたことを2年生が引き継ぎ、12月の生徒会執行部役員選挙や委員選出には多数の候補者が出る状況が生まれた。 ○縦割り掃除では掃除リーダーを中心に美化活動に取り組んできたが、リーダーが不在の時に同学年生徒が代役をするなど、仲間をカバーし合う風土もできた。 ○10月の文化祭では、委員会や学年、文化部など、各自が所属することで、自分の役割に対して最大限の力を発揮し、行事の成功に関する喜びや達成感を多くの生徒が感じることができた。 ○校則見直しに関わり、校則の意味について改めて見つめる機会があったことで、「自分たちの校則を自分たちで守る」という意識の醸成につながった。 ●学級活動等でのグループエнкаウンターなど、自己を見つめたり、人から認められているという認識を深める活動を積極的に取り入れていく必要がある。	・生徒会を中心とした教育活動が少いという点を見ている。点検等の常時活動だけでなく、生徒が主体となって企画・運営する活動が今後、さらに増えていくことを願う。 ・生徒会の委員長にも多くの立候補者があるという点は素晴らしいことだと思う。先輩たちの校則見直しの取組を見て、自分たちも何かできる。先生たちも一緒に考えてくれるという思いを生徒がもっているからなのだと思う。年月を経て生徒の熱量が冷めてしまわないための仕掛けが必要だと思う。	○体育祭、文化祭等の学校行事や生徒会活動において、生徒の主体性を重視しながら、目的の達成を意識して実施していく。
			②-ア リーダーを中心とした主体的な活動の実施(生徒指導規程の見直し、生徒会行事の運営)	「自分はクラスの人や友だちの役に立っている」と肯定的評価の生徒の割合(生徒アンケート)	90%	-	68%	72%	80%	B	○ふるさと再発見学習として、3年生による廿日市の魅力を探るための校外学習の成果を、文化祭で他学年や地域の方に発信することができた。 ○四季中リフレッシュ!の取り組みにおいて、四季中サポート隊の方と事前連携により、本校の美化活動を実施できた。 ●ふるさとの良さや現状・課題等に向けさせ、私たちの暮らす地域との関わりを見つめ直し、挨拶の輪や感謝の気持ちが飛び交う地域を目指すなど、できることから取組を行う必要がある。	・生徒会を中心とした教育活動が少いという点を見ている。点検等の常時活動だけでなく、生徒が主体となって企画・運営する活動が今後、さらに増えていくことを願う。 ・生徒会の委員長にも多くの立候補者があるという点は素晴らしいことだと思う。先輩たちの校則見直しの取組を見て、自分たちも何かできる。先生たちも一緒に考えてくれるという思いを生徒がもっているからなのだと思う。年月を経て生徒の熱量が冷めてしまわないための仕掛けが必要だと思う。	○体育祭、文化祭等の学校行事や生徒会活動において、生徒の主体性を重視しながら、目的の達成を意識して実施していく。
			②-イ 校内いじめ防止対策委員会の機能化(学年担任制を生かした全教職員による組織的対応、SC、SSW、SSRの活用による不登校生徒への対応)	「ふるさとに関心がある」と答える生徒の割合(生徒アンケート)	90%	-	67%	63%	70%	C	○ふるさと再発見学習として、3年生による廿日市の魅力を探るための校外学習の成果を、文化祭で他学年や地域の方に発信することができた。 ○四季中リフレッシュ!の取り組みにおいて、四季中サポート隊の方と事前連携により、本校の美化活動を実施できた。 ●ふるさとの良さや現状・課題等に向けさせ、私たちの暮らす地域との関わりを見つめ直し、挨拶の輪や感謝の気持ちが飛び交う地域を目指すなど、できることから取組を行う必要がある。	・生徒会を中心とした教育活動が少いという点を見ている。点検等の常時活動だけでなく、生徒が主体となって企画・運営する活動が今後、さらに増えていくことを願う。 ・生徒会の委員長にも多くの立候補者があるという点は素晴らしいことだと思う。先輩たちの校則見直しの取組を見て、自分たちも何かできる。先生たちも一緒に考えてくれるという思いを生徒がもっているからなのだと思う。年月を経て生徒の熱量が冷めてしまわないための仕掛けが必要だと思う。	○体育祭、文化祭等の学校行事や生徒会活動において、生徒の主体性を重視しながら、目的の達成を意識して実施していく。
			③-ア 地域人材を活用し、未来創造的な学習を実践(ふるさと、防災・生き方学習等における四季中サポート隊と生徒会の連携推進)	「ふるさとに関心がある」と答える生徒の割合(生徒アンケート)	90%	-	67%	63%	70%	C	○ふるさと再発見学習として、3年生による廿日市の魅力を探るための校外学習の成果を、文化祭で他学年や地域の方に発信することができた。 ○四季中リフレッシュ!の取り組みにおいて、四季中サポート隊の方と事前連携により、本校の美化活動を実施できた。 ●ふるさとの良さや現状・課題等に向けさせ、私たちの暮らす地域との関わりを見つめ直し、挨拶の輪や感謝の気持ちが飛び交う地域を目指すなど、できることから取組を行う必要がある。	・生徒会を中心とした教育活動が少いという点を見ている。点検等の常時活動だけでなく、生徒が主体となって企画・運営する活動が今後、さらに増えていくことを願う。 ・生徒会の委員長にも多くの立候補者があるという点は素晴らしいことだと思う。先輩たちの校則見直しの取組を見て、自分たちも何かできる。先生たちも一緒に考えてくれるという思いを生徒がもっているからなのだと思う。年月を経て生徒の熱量が冷めてしまわないための仕掛けが必要だと思う。	○体育祭、文化祭等の学校行事や生徒会活動において、生徒の主体性を重視しながら、目的の達成を意識して実施していく。
信頼される学校	【働きがい改革】を進め、地域と連携・協働し、教育の質を高め、信頼される学校をつくる。	【働きがい改革を推進する。】 ①「信頼される学校づくり」 ①がんばる姿を発信する。 ②「不祥事0」の風土を醸成する。	①-ア 協働の職場風土の醸成	「時間外勤務45時間超」にならない教職員の割合	75%	66%	56%	71%	95%	B	●月ごとの45時間以上の人数は8月0名・9月7名、10月8名、11月4名、12月は6名であった。このうち80時間以上は10月に2名となった。引き続きタイムマネジメントやワーク・ライフ・バランスを意識した働き方を実践できるように環境を整えていく必要がある。	・「働きやすさ」を感じる職員の割合が高まっていることをうれしく思う。先生たちも「主体的」に行動することが四季中のスタンダードになっていくことを期待する。	○労働安全衛生委員会で、勤務実態や業務の状況等において気になることはないか情報交換を行い、困りごとを共有できる雰囲気づくりを続ける。
			①-イ 学年担任制による業務の平準化とOJTの推進	「四季が丘中学校は働きやすい職場だ」と回答する教職員の割合	80%	80%	75%	92%	115%	A	○働きやすい職場であるという問いに対し、肯定的評価が92%となった。学年担任制において、問題が発生した際に、チームで対応するという風土が醸成されており、精神的負担が緩和されているのではないかとと思われる。	・四季中に対する保護者の肯定的な答え方は、日頃の教職員の努力の表れだと思う。	○引き続き 授業参観や学校行事等で、年間を通して月1回は保護者に来校いただく機会を設定していく。
			①-ア 生徒や教職員のがんばる姿を、学校だよりや各種通信、HPに掲載	「四季が丘中学校で学ばせてよかった」と回答する保護者の割合(保護者アンケート)	85%	82%	88%	88%	104%	A	○各種通信やブログにより、生徒の日々の活動の様子を積極的に発信した。学年だよりでは生徒自身のことばを引用したり、教員の思いを伝えたりしている。また、学校行事や授業参観等で保護者や地域の方に生徒の様子を実際に見ていただく機会を設けている。これらが肯定的評価が高くなっている要因と考えられる。	・四季中に対する保護者の肯定的な答え方は、日頃の教職員の努力の表れだと思う。	○引き続き 授業参観や学校行事等で、年間を通して月1回は保護者に来校いただく機会を設定していく。
【小中共通】	【協働し、主体的に学ぶ児童・生徒の育成】	【小・中共通テーマ】 協働し、主体的に学ぶ児童・生徒の育成	・課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組む児童生徒の割合(児童生徒アンケート)	85%	82%	91%	92%	108%	A	○学校行事や委員会、総合的な学習の時間などで「自分たちで計画し、実行する」場面をできるだけ多くしたことで主体性が生まれた。また、うまくいかない経験が「自分で考える」高値を育んだ。 ○学習における課題解決に関しても、主体性をより高められるようにした。	・これからは生徒がタブレットを使うことが当たり前になっていく、使えないことで不利益を被ることも出てくると思うので、学校で触れて大いに活用することは大切だと思う。反面、ネット上にあふれる情報の真偽や誹謗の判断ができる「デジタル」を身につけておく必要があると思う。	○生徒が主体的に取り組めるよう、授業の課題設定を工夫し、本質的な問いによる授業改善を引き続き図っていく。	
			・PC・タブレットなどのICT機器を使って友達と考えを交流する児童生徒の割合(児童生徒アンケート)	85%	-	92%	98%	115%	A	○授業だけでなく、授業評価や教科の連絡など様々なことでICTを活用することを進めた。生徒にとって考えを表現するのに当たり前に使うツールとなっていった。	○ICTの機器の効果的な活用と共に、デジタル・ディバイスの視点も合わせて取り入れていく。		
			・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合(児童生徒アンケート)	85%	-	75%	75%	88%	B	●生徒アンケートによると、肯定的評価が75%(1年生76%、2年生73%、3年生76%)で前回値とあまり変化が見られず、目標値を達成できなかった。	・生徒の様々な取り組みや学習を積み重ねることが、将来の「郷土愛」につながると思う。小中学生のうち素地に耕していき、生徒に自分のよさに気付かせていくことが大切なのだろう。		
			・「自分はクラスの人や友だちの役に立っている」と肯定的評価の児童生徒の割合(児童生徒アンケート)	85%	-	68%	72%	85%	B	●生徒アンケートによると、肯定的評価が72%(1年生76%、2年生70%、3年生6%)で、目標値を達成できなかったが、どの学年においても改善が見られた。	○ふるさと学習や防災キャンプ等、地域を意識した学習を進めていく。活動を通して、生徒に自分のよさに気付かせていく。		

評価基準	評価基準	目標値に対する達成度
目標値に対する達成度	A:十分に達成されている	100%以上
中間(最終)値	B:概ね達成されている	80%以上100%未満
÷目標値×100	C:やや不十分である	60%以上80%未満
	D:不十分である	60%未満

※複数の項目の平均値で評価する。